

第4回サステナブルファイナンス有識者会議

損害保険業界における取組みや今後の課題について

2021年3月2日

東京海上日動火災保険株式会社
(一般社団法人日本損害保険協会)

To Be a Good Company



TOKIO MARINE
NICHIDO

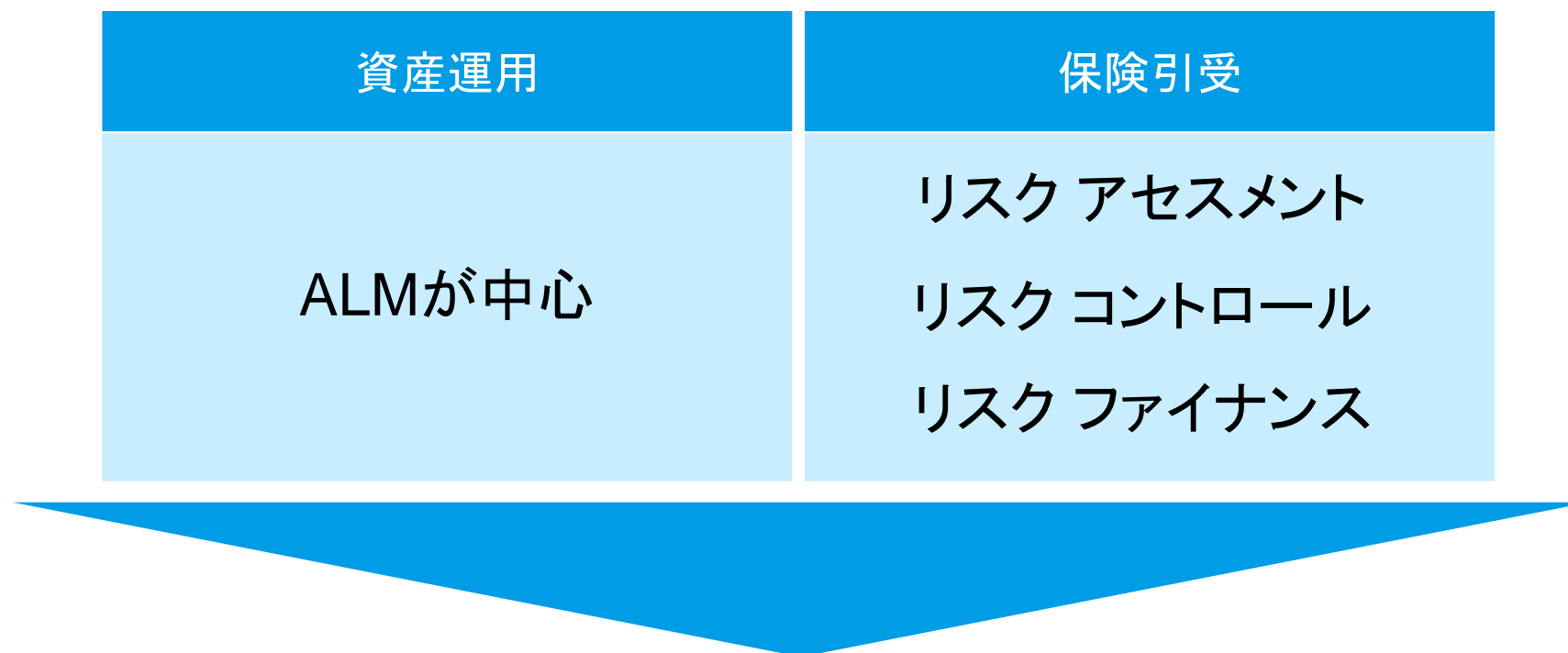
東京海上日動

アジェンダ

- 損害保険の役割とビジネスモデル _____ 3
- 損害保険の活躍機会と実例 _____ 5
- メッセージ - 今後に向けて _____ 10

1. 損害保険の役割とビジネスモデル

損害保険の機能と役割



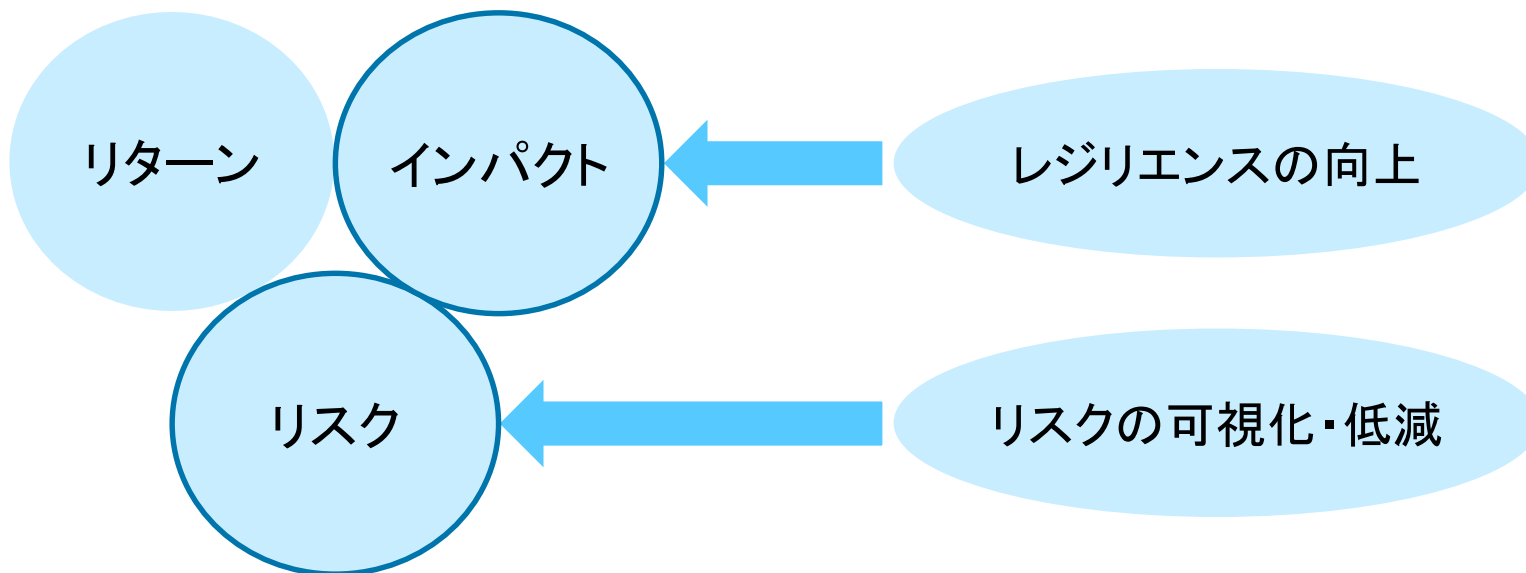
本日は「保険引受(リスク)」の側面から、
サステナブルファイナンスの観点における損害保険の取組みや課題認識を論じたい

1. 損害保険の役割とビジネスモデル

■ サステナブルファイナンスにおける損害保険業界の活躍機会

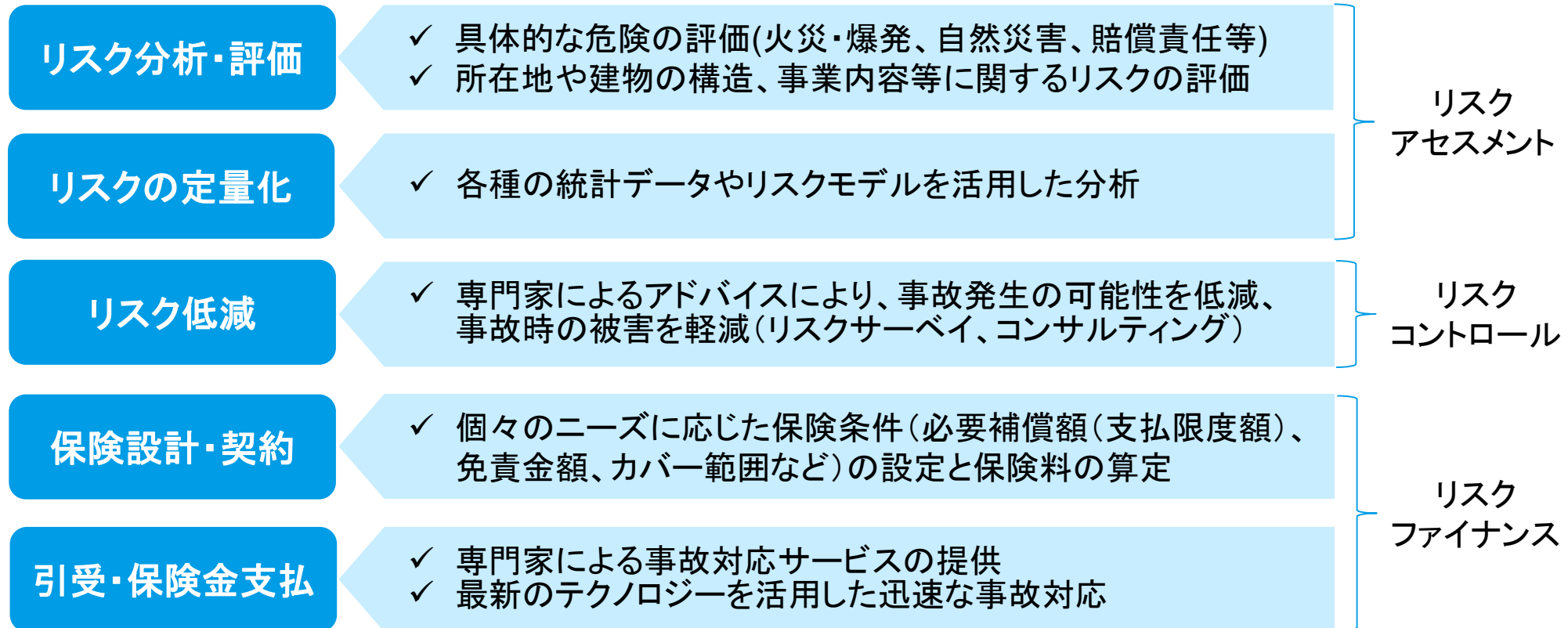
収益評価の3要素

損害保険の活躍機会



損害保険業界のノウハウ・機能を活用することにより、サステナブルファイナンスにおけるインパクトの要素も含めた「リスク調整後リターン」を高めることが可能となると考える

2. 損害保険の活躍機会と実例 – 保険引受プロセス全体像



- 社会インフラをはじめ様々な産業のリスクを可視化し、低減することでレジリエンスを高める
- レジリエンスの向上は、①社会にプラスのインパクトを生む、②企業の投資行動を促す、③企業あるいは企業活動に対するファイナンスの「リスク調整後リターン」を改善する

2. 損害保険の活躍機会と実例

リスクアセスメント

- リスク量の計測に用いるリスクモデルやストレステストの高度化を実施

リスク量の計測(自然災害リスク)

- ✓ 自然災害に係る工学的理論や最新知見等をもとに自社で開発、またはベンダー会社等の第三者が開発したリスクモデルを使用

物理的リスクに備えたリスクモデルの高度化

- ✓ 近年の自然災害の発生状況がモデルに反映されるよう、グループ内の専門家、外部有識者との連携等を通じて、最新の知見を収集。自社モデルの高度化やベンダーモデルの検証・評価を実施

自然災害リスクのストレステストと高度化

- ✓ 重要なリスクのうち経済的損失が大きいリスクについては、ストレステストにより資本の十分性および資金流動性を検証
- ✓ 巨大な自然災害など低頻度ではあるものの、発生すれば甚大な影響が出る厳しいケースで実施
- ✓ 欧米ピアや各国規制当局・中央銀行等が公表するストレステストとの比較も行い、十分なストレスをかけていることも確認
- ✓ 気候変動を含めた最新の知見を収集し、シナリオを継続的にアップデート

2. 損害保険の活躍機会と実例

リスクコントロール

- 営業担当者がアンダーライターと連携して行うリスクサーベイに加え、東京海上日動リスクコンサルティングを通じて、「自然災害リスク評価」「自然災害リスク低減対策」等のコンサルティングサービスを提供。

リスク評価(地震・津波)

- ✓ 地震保険分野で培われた実績と最新の評価技術を搭載した地震・津波リスク評価システムを用いて、対象拠点の地震・津波リスクを定量評価。

リスク評価(風災)

- ✓ 気象学・風工学の最新の知見と保険会社の有する被害情報を反映。強風やそれに伴う損害を定量化。

リスク評価(水災)

- ✓ 国や地方自治体が公表している浸水想定区域図やハザードマップの情報に加え、現地調査や洪水氾濫シミュレーションを実施。

気候変動シナリオ分析支援コンサルティング

- ✓ TCFD提言に対応する気候変動リスク・機会の特定とその影響についてのシナリオ分析を支援。

水リスクコンサルティング

- ✓ 水リスクの現状分析や氾濫シミュレーションによる水リスク評価を実施。

グローバルサイトの自然災害情報管理支援

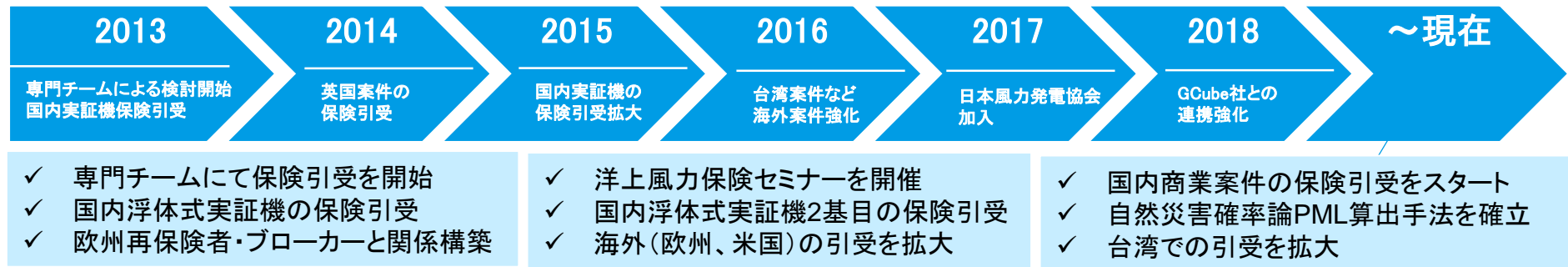
- ✓ グローバルに事業拠点を展開するお客様向けに、世界各地の地点の自然災害リスク(地震、風災、洪水等)を定性的、定量的に把握し相対評価するサービスを提供。

2. 損害保険の活躍機会と実例

グリーン関連プロジェクトに対する保険引受(リスクファイナンス)

- 東京海上日動では、2013年頃から洋上風力発電事業にかかる保険引受の本格的な検討を開始し、国内外の様々な開発プロジェクトに関与。
- また、2020年4月から国内の洋上風力発電事業者向けのパッケージ商品の販売を開始しており、今後も日本における新規開発プロジェクトの進展に貢献していく。

これまでの取組み



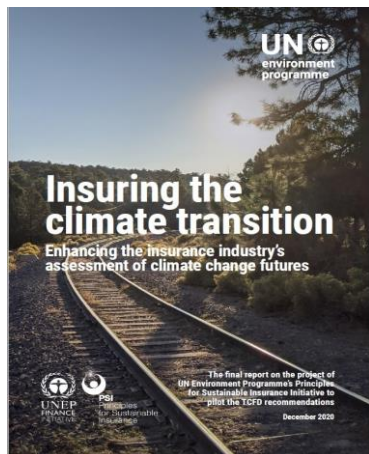
- ✓ 2018年以降も保険引受を拡大。プロジェクトファイナンスへの関与を強化し、メガバンク・大手弁護士事務所等の社外関係者とオープンイノベーションの形で意見交換を開始。
- ✓ TMHCCにより再生可能エネルギーに特化した保険総代理店「GCube社」を買収。グループとして連携を強化。
- ✓ 2020年3月に国内洋上風力発電事業者向けのパッケージ商品を開発。包括的な補償の提供を開始。

2. 損害保険の活躍機会と実例

インテリジェンス

- 国内外でのイニシアティブ活動を通じ、TCFD提言に沿った気候関連情報開示の方法論づくりに貢献。
- 国内外の企業・保険業界のTCFD提言に沿った気候関連情報開示の促進およびそれと歩調を合わせた自社の気候関連情報開示の充実を通じ、脱炭素社会への移行に貢献していく。

国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEPFI) PSI TCFD保険パイロットグループ



(出典: UNEPFI)

- 保険業界の気候関連情報開示にかかる方法論や分析ツールの検討・開発(2018年-)
- 保険業界の気候関連情報開示促進に向けたレポート「Insuring the climate transition」公表(2021年1月)に貢献
- IPCC/IEAのシナリオを用い物理的/移行リスクのシナリオ分析を実施(併せて潜在的な訴訟リスクの分析も試行)
- 保険業界全体の気候関連情報開示促進に向けた第一歩

TCFDコンソーシアム TCFDガイダンス2.0

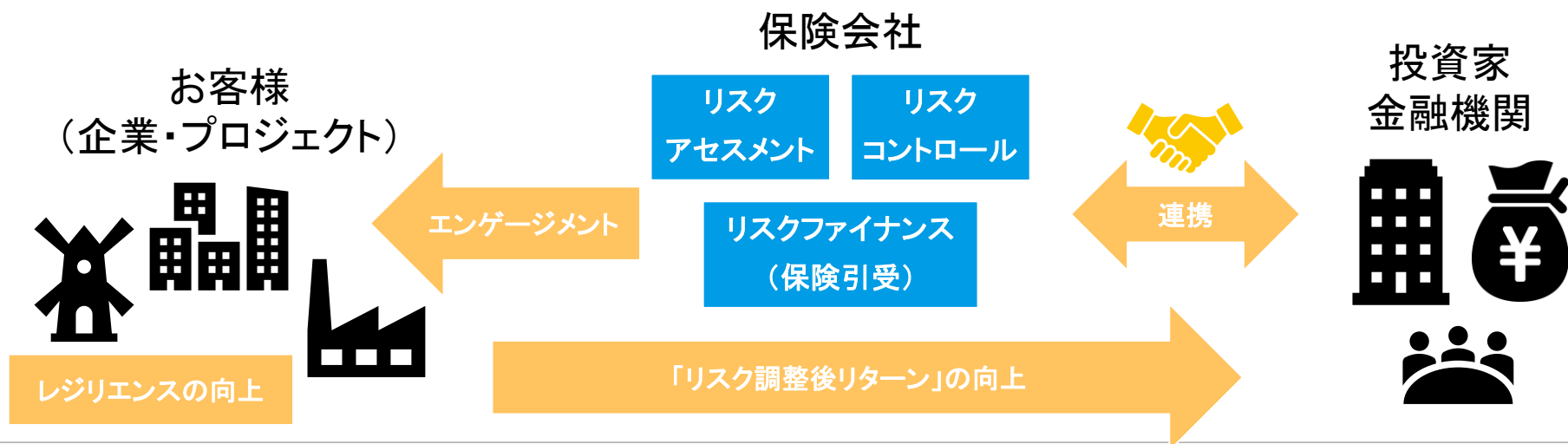


(出典: TCFDコンソーシアム)

- TCFDコンソーシアム発起人・企画委員として「ガイダンス2.0」策定・公表に貢献
- 損害保険の開示推奨項目:
 - ・気候変動影響
 - ・気候変動にもたらしうる影響
 - ・リスク管理の高度化やリスクの低減に向けた取組
 - ・気候変動によりもたらされる機会
- 事例集(戦略パート)に東京海上HDの「気候変動が自社事業にもたらす機会」に関する事例が掲載

3. メッセージ - 今後に向けて

- 持続可能な環境・社会の実現に向けたお客様の事業活動を下支えするうえでは「エンゲージメント」が何より重要
- 保険会社によるエンゲージメントにより、お客様およびその所在地のレジリエンスと、金融機関・投資家の「リスク調整後リターン」の双方が同時に向上する
- 今後、サステナブルファイナンスの促進に向けて投資家・金融機関と連携したエンゲージメントのあり方が検討できないか



ご清聴ありがとうございました。

*To Be a **Good Company***

Copyright (c) Tokio Marine & Nichido Fire Insurance Co., Ltd.

